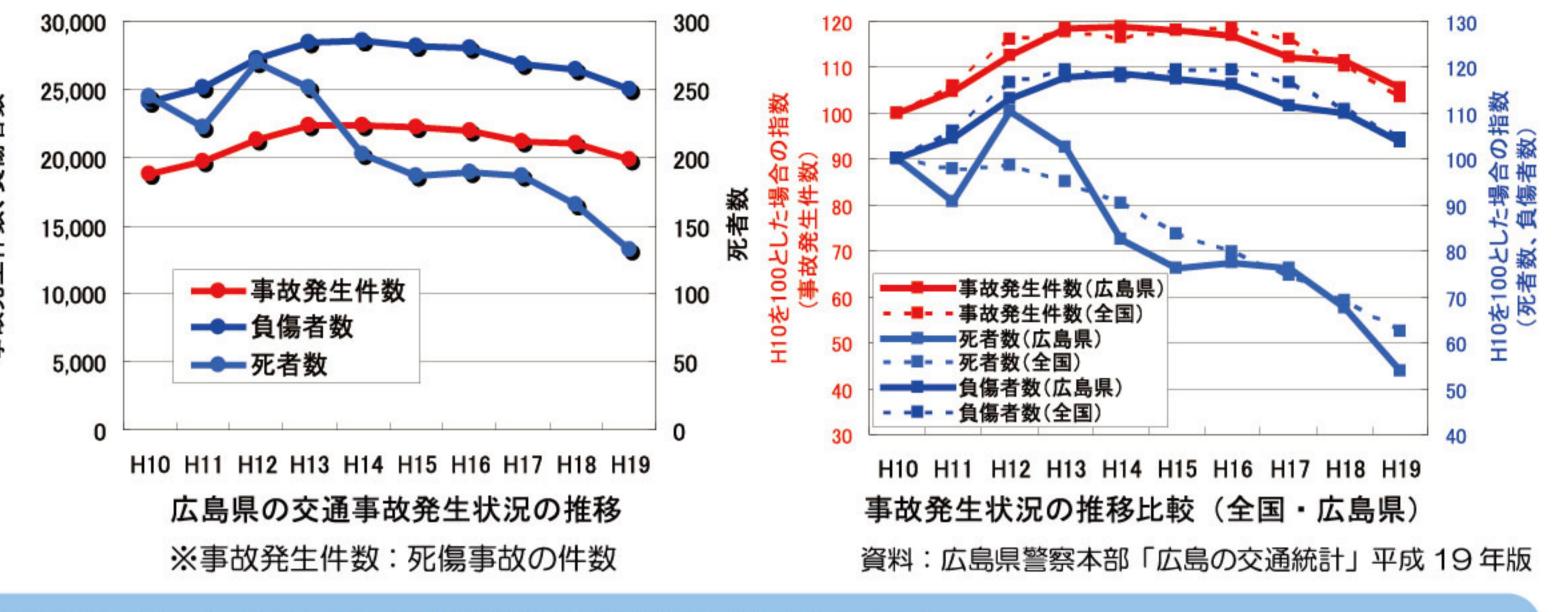


広島県下の交通事故状況

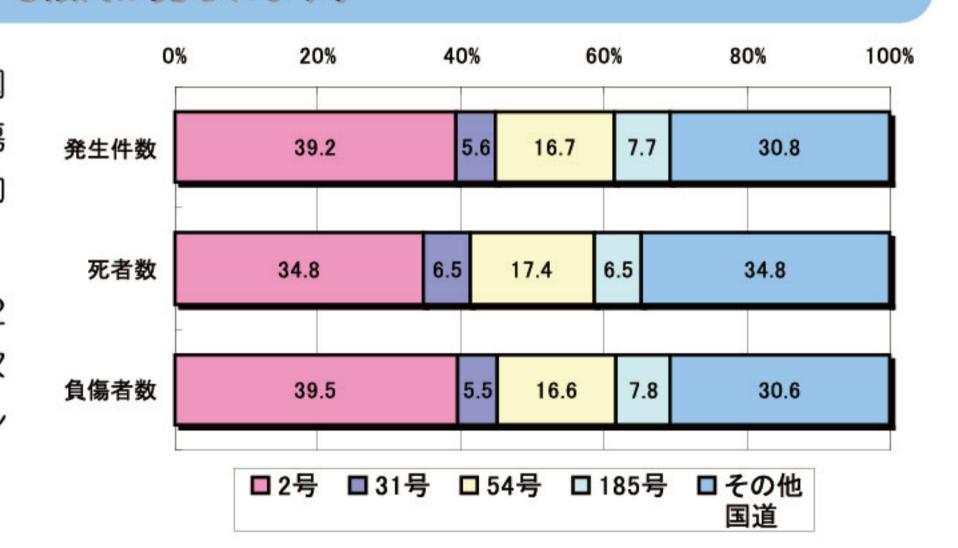
事故発生件数・負傷者数は、減少傾向にあるものの、10年前よりも高いレベルにあります。

- 交通事故による死者数は、近年の交通安全対策の効果もあって、過去10年間で概ね半減しています。
- 事故発生件数*、負傷者数についても近年減少傾向にありますが、10 年前の数値と比べると、まだ 高いレベルにあります。
- 過去 10 年間の広島県内での事故発生状況(事故発生件数、負傷者数、死者数)の推移は、全国とほ ぼ同じ傾向を示しています。



路線別では、国道2号に事故が集中する傾向が見られます。

- 広島県全体の事故のうち、約4割が国 道2号で発生しています。また、負傷 _{発生件数} 者数で見ても約4割、死者数では約 35%を占めています。
- 延長 10km あたりで見ても、国道 2 号で事故が多発する傾向が見られ、次 いで国道 31 号や 54 号で多く発生し ています。

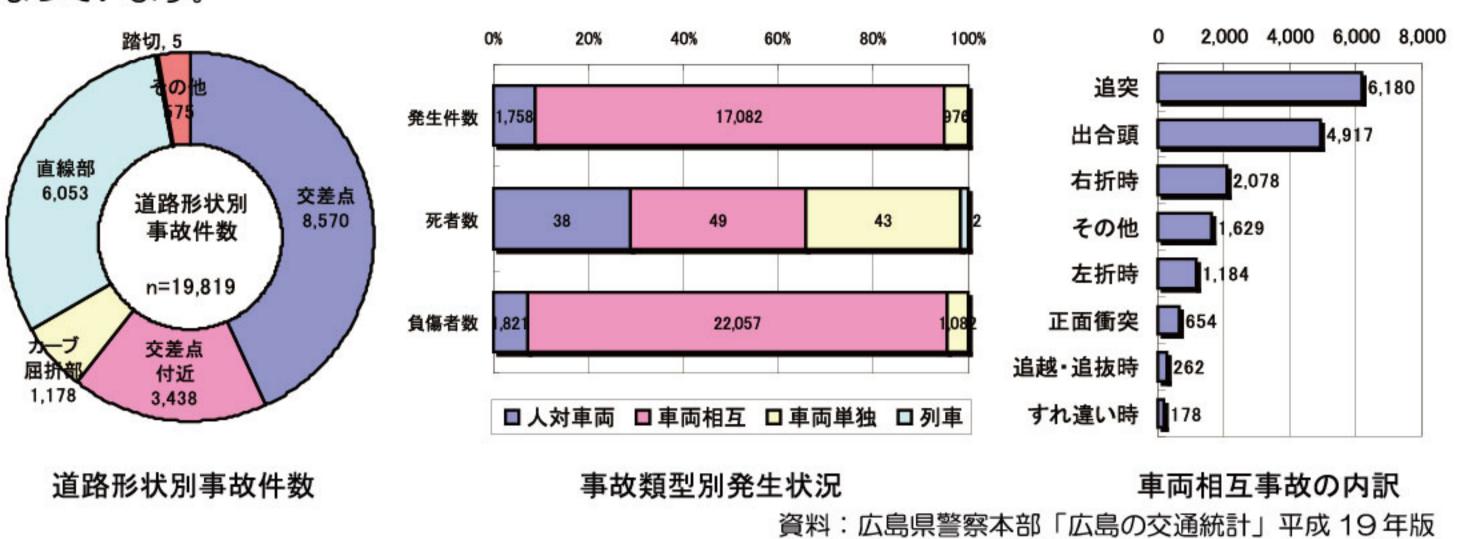




事故発生場所別では、交差点における事故が全体の約4割を占めています。また、追突や出合 頭等の車両相互の事故が大半を占めています。

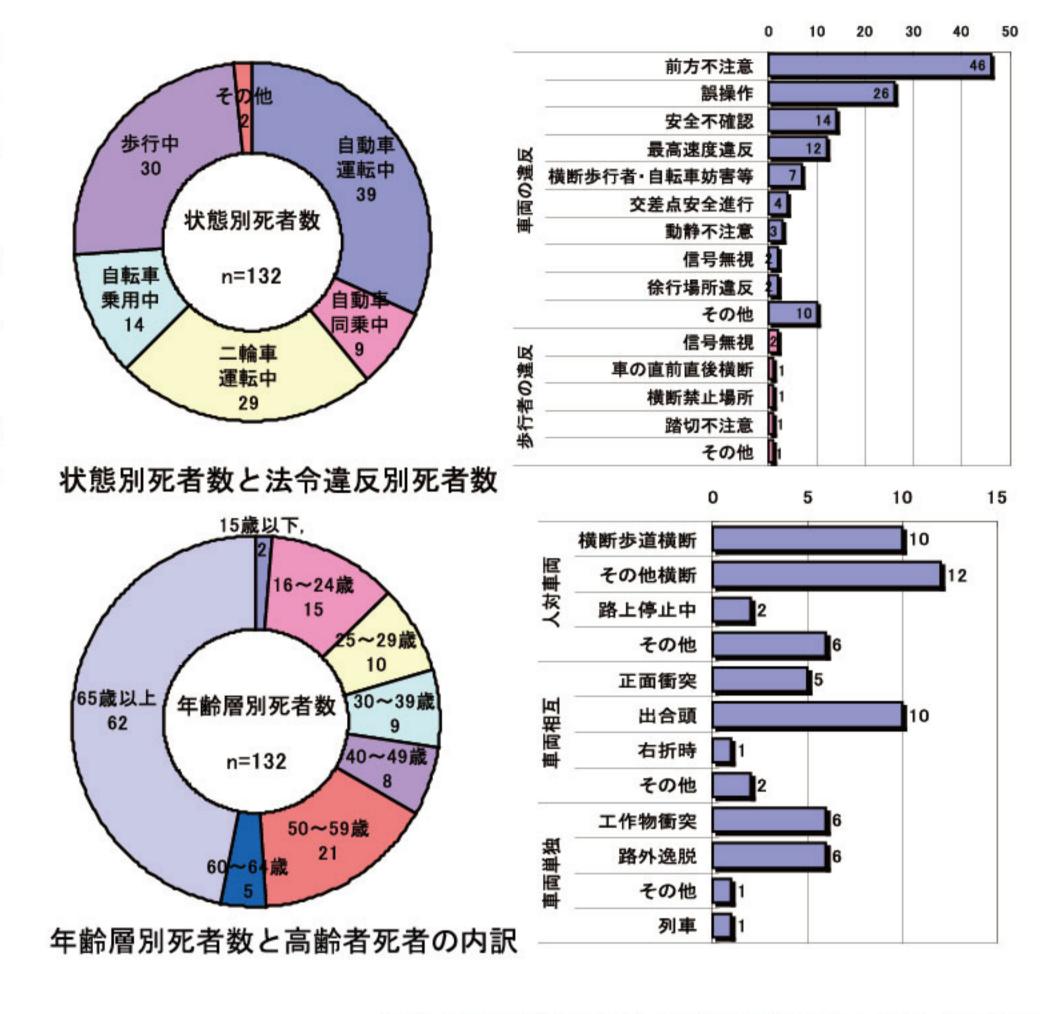
広島県下の交通事故状況 2

- 事故発生場所別では、交差点における発生件数が43%を占めています。
- 事故類型別では、車両相互の事故が最も多く全体の86%を占めており、このうち、追突や出合頭の 事故が特に多く発生しています。また、死者数については、人対車両や車両単独の事故の割合も高く なっています。



自動車運転中の死者が全体の約3割を占め、前方不注意による事故が多発しています。 また、横断中の高齢者事故が多発しています。

- 状態別の死者数の内訳は、自 動車運転中が最も多く 32% を占め、歩行中がこれに次い でいます。
- 法令違反別では、前方不注意 による事故が最も多く発生 しています。
- 全死者数のうちの 47%が高 齢者であり、そのうち横断中 の事故が多くなっています。

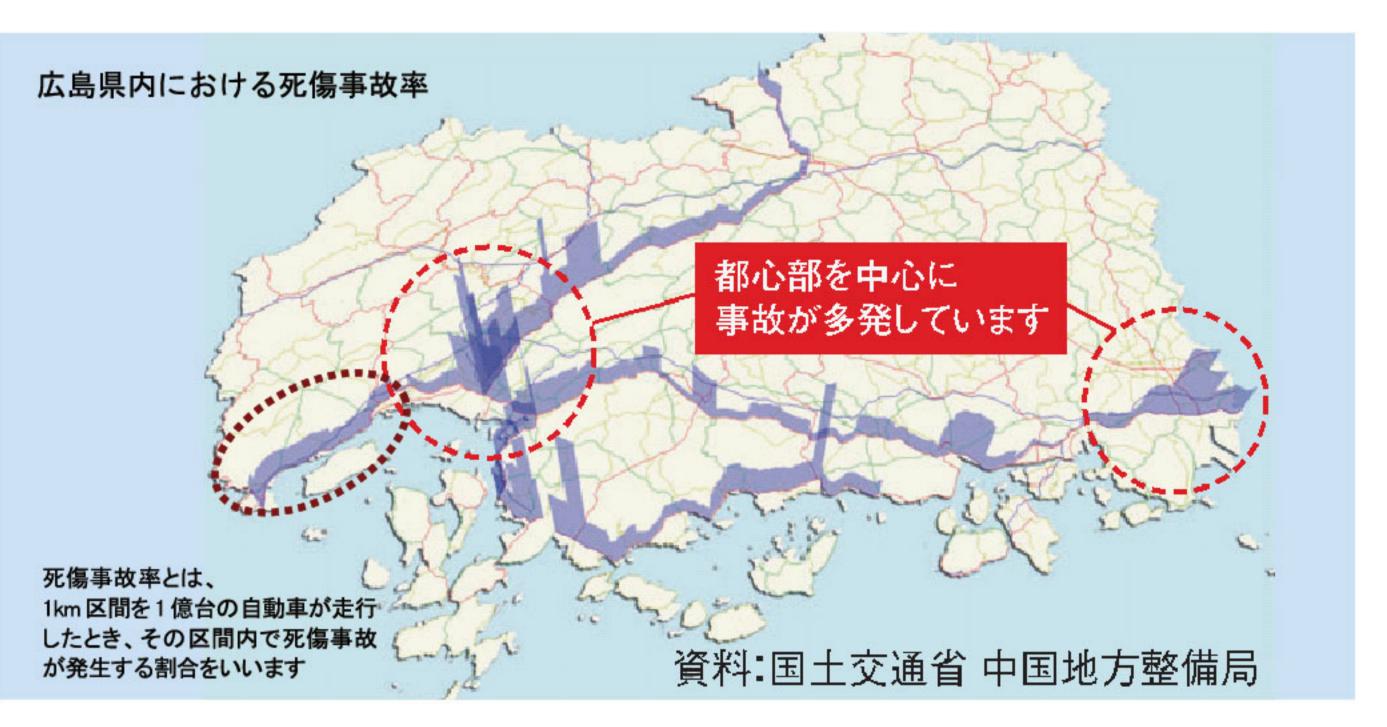


資料:広島県警察本部「広島の交通統計」平成 19 年版

都心部を中心に事故が多発しており、特に広島市内の事故の集中が顕著です。

● 広島県内の死傷事故は、広島、福山の都心部を中心に多発する傾向が見られます。廿日市·大竹地域 では、国道2号の死傷事故率がやや高いものの、他地域のように突出した多発区間は見られません。

廿日市・大竹地域における交通事故状況



廿日市・大竹地域の直轄国道における事故多発箇所(死傷事故率の高い交差点)

- 廿日市·大竹地域の直轄国道における死傷事故率を見ると、最も高い箇所は、国道2号「宮内交差点 」の 733 (件/億台キロ) となっています。
- 上位3位の交差点は、いずれも地域の幹線道路である国道2号上の事故危険箇所となっています。



廿日市・大竹地域のヒヤリ・ハット状況1 廿日市・大竹地域のヒヤリ・ハット状況2

ヒヤリまっぷ作成の目的

■ 国道を管理する国土交通省では、誰もが安全に安心して利用できる国道を目指し、交通事故を抑止す るための交通安全対策に取り組んでいます。

国土交通省中国地方整備局・広島国道事務所

「ヒヤリまっぷ」って何

● 今後さらに進める交通安全対策に役立てることを目的として、管理する国道を対象に、日頃から道路 を利用されている地域のみなさまから「ヒヤリ・ハット体験」についてお伺いするアンケート調査を実 施しました。

「ヒヤリ・ハット体験」とは、

交通事故には至らないものの、一歩間違えれば交通事故になる可能性が高かった体験のことです。

● 今回の調査で皆様からお寄せいただいた「ヒヤリ・ハット体験」に関する情報は、今後の交通安全対 策を進める際の参考とさせていただくとともに、地域の皆様の安全な道路利用にもご活用頂けるよう 「ヒヤリまっぷ」としてとりまとめました。

ヒヤリまっぷの活用方法

●公共施設等の利用者の方々

- む出かけ前に、目的地までのルート上の「ヒヤリ・ハット箇所」の有無や位置をご確認下さい。
- 「ヒヤリ・ハット箇所」を通行する際は、「ヒヤリ・ハット体験」を参考に十分注意して走行して下さい。
- 地域や職場、学校などで交通安全活動等を行う際、この「ヒヤリまっぷ」の情報を関係者の間で共有 することにより、交通安全の向上に役立てて下さい。

ヒヤリまっぷ作成にあたってのアンケートにご協力いただいたみなさま

広島国道事務所管内を対象に、交通安全(ヒヤリ・ハット体験)アンケート調査を実施し、その結果、以 下のとおり合計 1,813 名の方々から、貴重な体験情報やご意見をいただきました。 月】 で協力いただいた方に、改めて御礼申し上げます。【アンケート実施期間:平成 20 年 8 月~10

●運転免許更新者の方々 500名 ●プロドライバーの方々(トラック、バス、タクシー、JAF、郵便配達の各ドライバー) 432名 ●中学校、高校の生徒の方々

国土交通省 中国地方整備局 広島国道事務所

〒734-0022 広島市南区東雲2丁目13-28

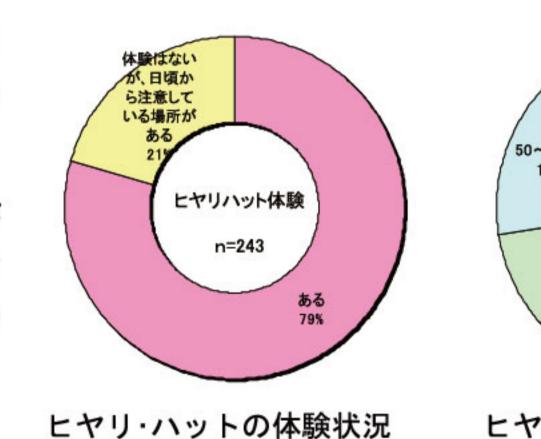
ヒヤリまっぷ・アンケートに関するお問い合わせ先

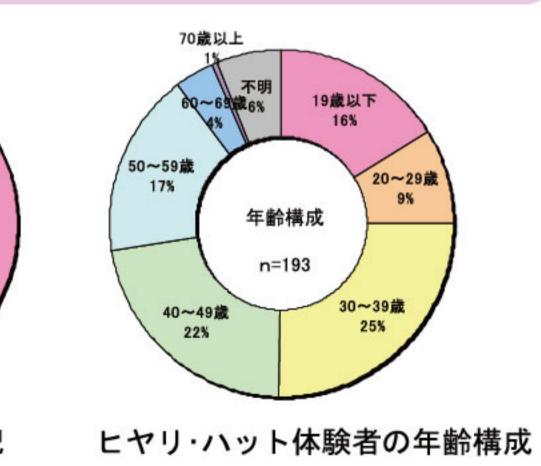
TEL: (082) 281-4131 (代表) FAX: (082) 286-7897 E-mail: hirokoku@cgr.mlit.go.jp

交通安全アンケートをもとに、皆さんから寄せられたヒヤリ・ハット体験の状況を整理すると、以下のと おりとなっています。

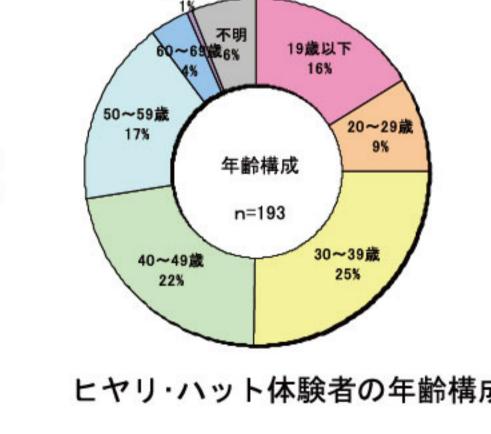
約8割の方(ほぼ全ての年齢層)がヒヤリ・ハットを体験!

- 交通安全アンケートに回答していた だいた方の 79%が、ヒヤリ・ハットを 体験しています。
- 年齢層別では、30歳台と40歳台が それぞれ1/4前後を占めています が、その他、ほぼ全ての年齢層がヒヤ リ・ハット体験しています。





資料:広島県警察本部「広島の交通統計」平成 19 年版



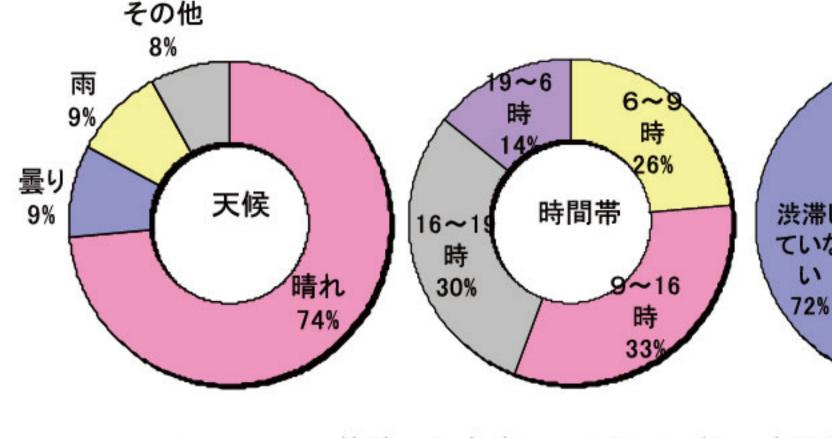
ヒヤリ・ハット体験は、「晴れの日」の「午前中から夕方」、「渋滞していないとき」に集中!

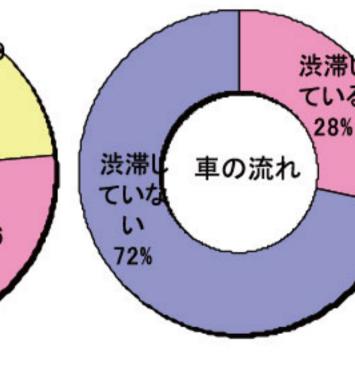
天候別では、「晴れ」が 74%を占めています。

時間帯別では、「9~16 時」が最も多く、「16~ 19時」「6~9時」がこ れに次いでいます。

「渋滞していない時」の ヒヤリ・ハットが、全体の 72%を占めています。

584名



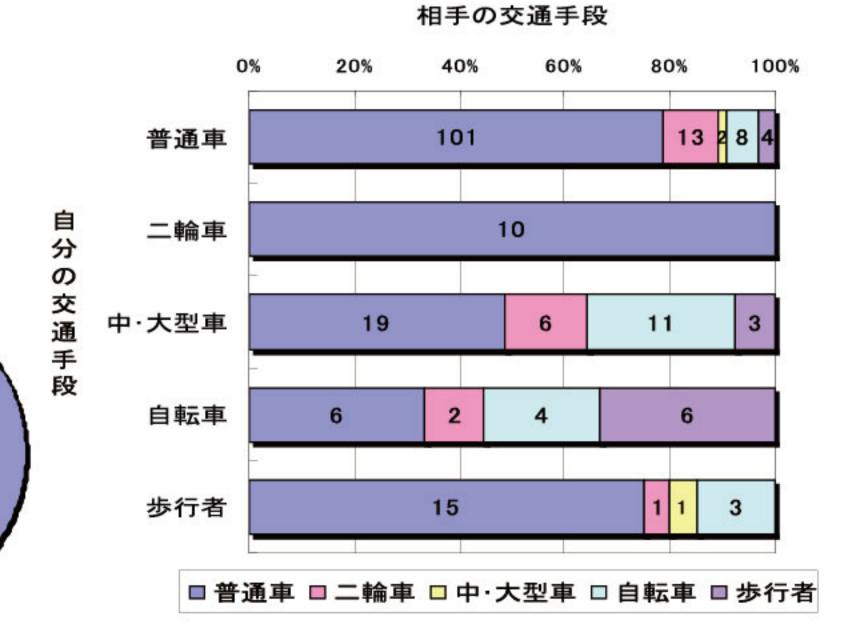


ヒヤリ・ハット体験の発生状況の内訳(天候、時間帯、車の流れ)

ヒヤリ·ハット体験は、自分·相手ともに普通車運転中に多い!

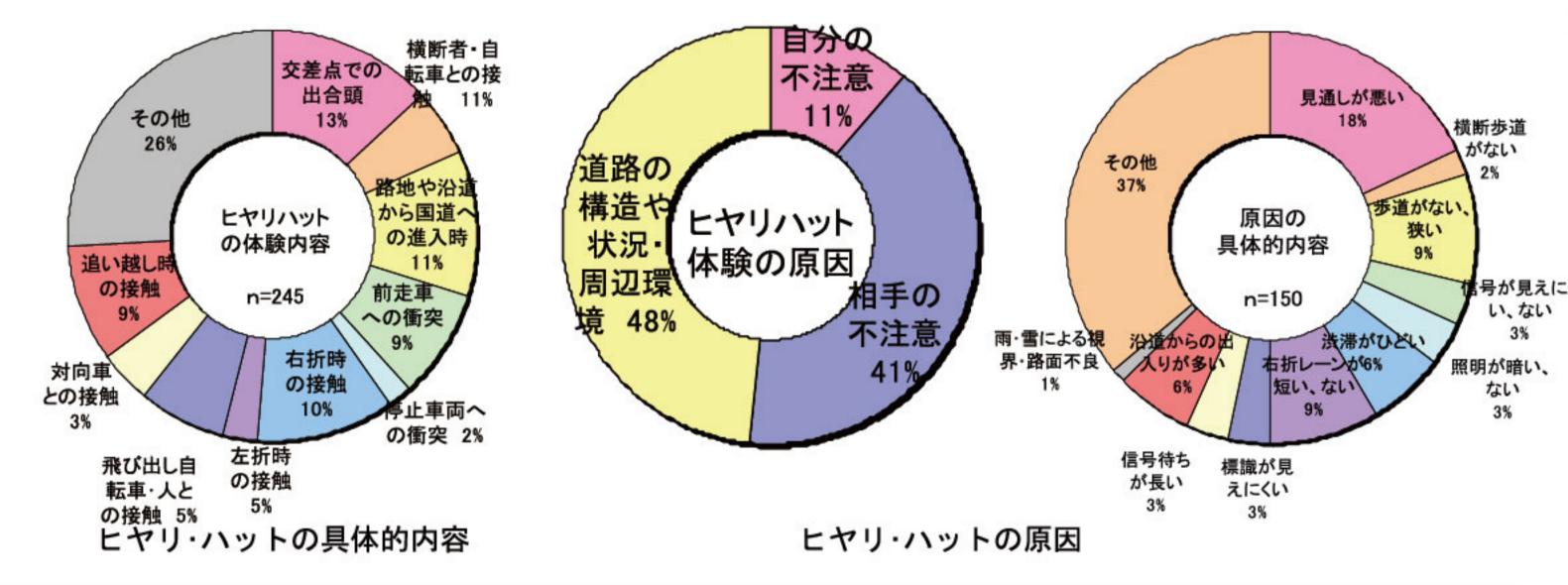
● 自分が普通車を運転中にヒヤリ・ハット 体験したケースが圧倒的に多く(70%)、 自転車運転中がこれに次いでいます。

ヒヤリ・ハット体験した際の相手の交通 手段も、全般的に普通車が多いですが、 中・大型車と自転車と のヒヤリ・ハッ 中・大型 自転車, 13 トがやや多いこ 自分の とも特徴です。 交通手段



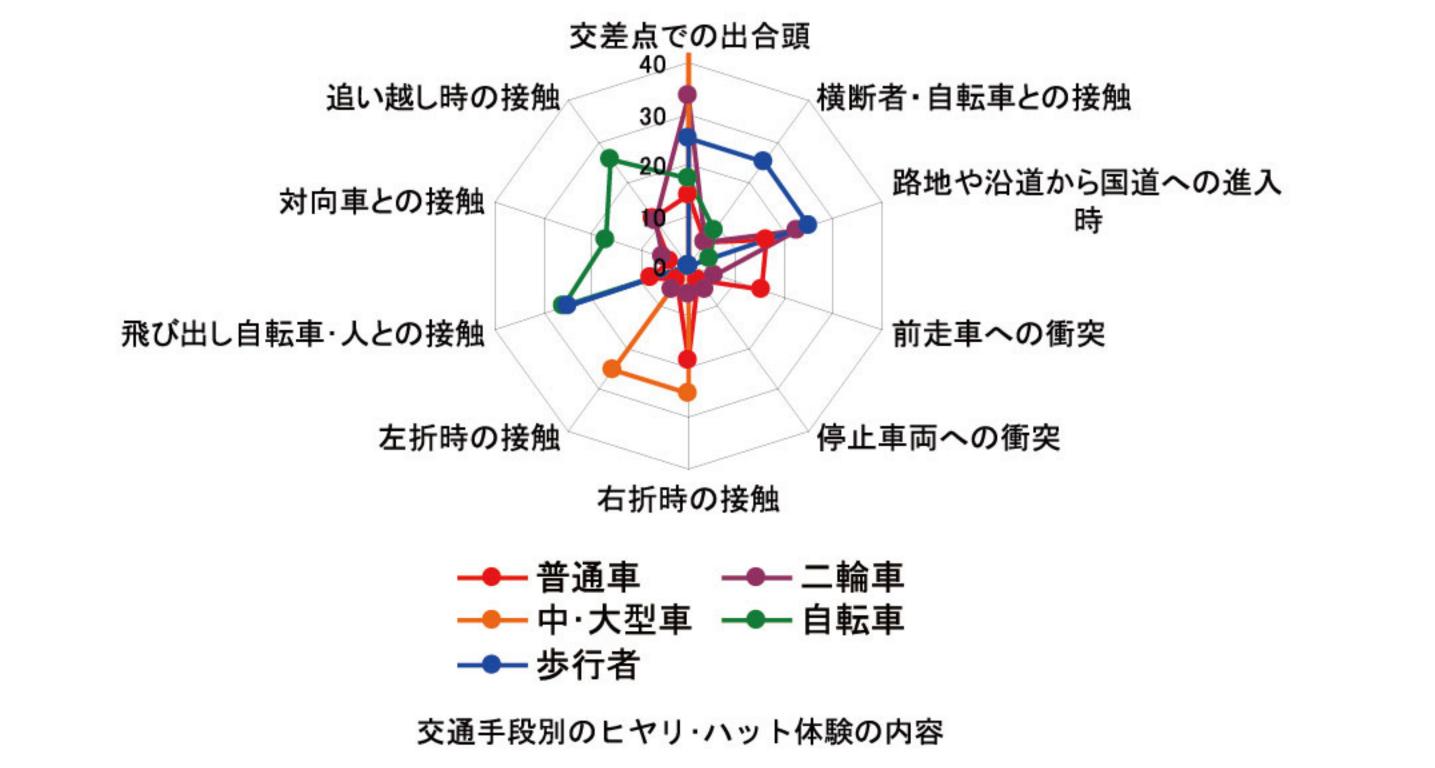
「見通しが悪い」ことによる「出合頭」や「沿道からの進入時」のヒヤリ・ハットが多い!

- ヒヤリ・ハットの具体的内容としては、「交差点での出合頭」や「路地や沿道から国道への進入時」な どが多く挙げられています。
- ヒヤリ・ハットの原因は、「道路の構造や状況・周辺環境」が半分近くを占めており、その具体的内容 としては「見通しが悪い」が最も多く挙げられています。



二輪車のヒヤリ・ハットは、「出合頭」が多い! その他、歩行者の「出合頭」や「自転車との 接触」、中・大型車の「右・左折時の接触」のヒヤリ・ハットが比較的多い!

- 二輪車については、「交差点での出合頭」のヒヤリ・ハットが特に多く挙げられています。
- その他、歩行者の「交差点での出合頭」、「横断者·自転車との接触」、「路地や沿道から国道への進入 時」、中·大型車ドライバーの「右・左折時の接触」などのヒヤリ·ハット体験が比較的多くなってい



みなさまのヒヤリ・ハット体験を参考に 交通事故対策を進めます!

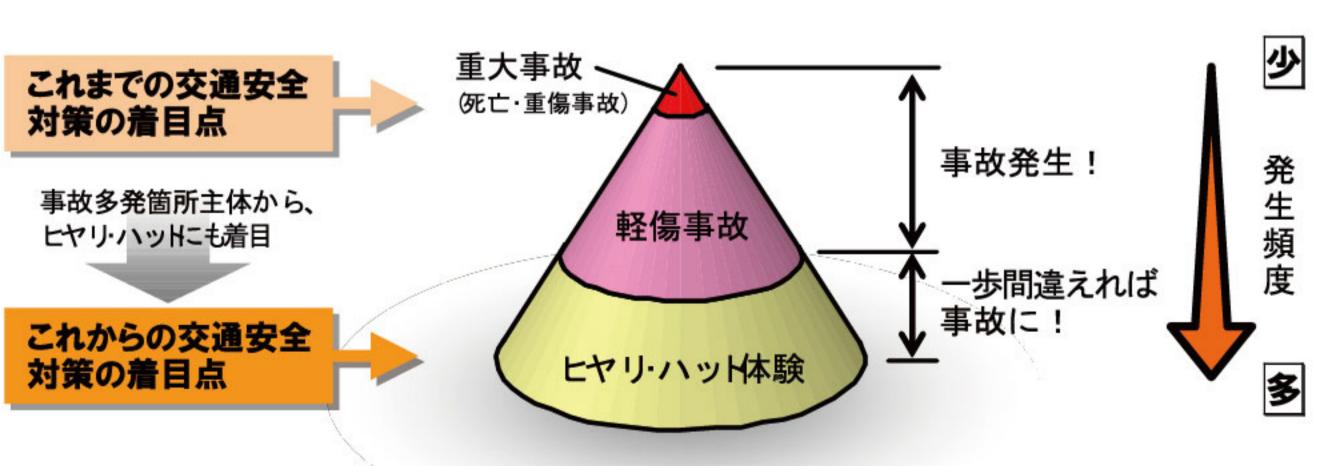
1 件の重大事故発生の背景には、その何百倍ものヒヤリ・ハットが!

広島県内では、132 人の死亡事故(平成 19 年実績)を含む重大事故が発生していますが、一般的 に、重大事故の発生件数は交通事故全体の中では氷山の一角に過ぎず、その背景には、何十倍もの軽 傷事故と、何百倍ものヒヤリ・ハット体験が発生しているといわれています。

※ハインリッヒの法則

事故多発箇所主体の対策から、ヒヤリ・ハット箇所にも着目した対策に!

- これまでの交通安全対策は、死傷事故が多発している箇所(事故率が高い箇所)に着目した対策が主 体でした。これらの対策の結果、死者数の減少などの事故削減効果が現れつつあります。しかしなが ら、道路利用者が危険を感じていても事故が発生していない箇所については、危険箇所として着目さ れていないという問題がありました。
- 重大事故を未然に防ぐには、日頃から不安全な状態や行為を認識し、ヒヤリ・ハットの段階で地道に 対策を考え、実行していくことが重要です。そのため、今後の交通安全対策では、事故多発箇所の対 策に加えて、ヒヤリ・ハット箇所に着目した対策もあわせて進めていく予定です。



事故とヒヤリ・ハットの関係と、交通安全対策の着目点

地域のみなさまと共に交通安全対策を検討!

■ これまでも、交通安全対策の検 討に際し、現地検討会を開催す るなど、地域のみなさまのご意 見等を対策に反映するための機 会を設けてきました。

今後も、交通事故(死傷事故率)

のさらなる削減に向けた対策を

引き続き進めていく予定ですが、





地域の実情をふまえた適切な対策を講ずるためには、ヒヤリ・ハット情報の提供など地域のみなさま のご協力が不可欠となります。

● 誰もが安全に安心して利用できる道路環境の実現に向け、みなさまのご協力をお願いいたします。